

鳥取縣公報

第八百九十一號

昭和十二年十二月二十八日

火曜日

縣令

◇鳥取縣令第五十五號

母子保護法施行細則左ノ通定ム

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

母子保護法施行細則

第一條 市町村長ハ扶助ヲ受クル者ニ付様式第一號ニ依リ母子保護臺帳ヲ作成スベシ

第二條 市町村方面委員ニ手當其ノ他ノ給與ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ給與額及其ノ支給方法ニ付知

事ノ認可ヲ受クベシ

第三條 市町村長醫療ノ爲醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ指定シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第四條 生活扶助及養育扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

人員	市	倉吉町	其ノ他ノ町村
一人	一七錢	一五錢	一三錢
二人	二九	二七	二四
三人	三九	三七	三三
四人	四七	四五	四〇
五人	五四	五一	四六
六人	六〇	五六	五一
七人以上	六五	六〇	五五

扶助ヲ受クル者ノ世帯ニ於テ收入アル場合ニ於テハ其ノ收入ノ額ハ前項ノ額ヨリ之ヲ控除スベシ
 第五條 醫療ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 診察料 無料 但シ往診ノ場合ニハ汽車ニ付テハ三等實費、陸路ノ場合ニハ往復ヲ通ジ

一里毎ニ四十錢ノ車馬賃ヲ給ス

二 藥治料 一人一日十二錢世シ處方箋ニ依リ藥劑師ニ就ク場合ハ一劑六錢

三 處置料 一人一回十錢

二 收入豫算

三 收入ノ處分方法

第十一條 市町村長ハ毎年度十月及四月ノ各十五日迄ニ其ノ前月迄ノ六月間ノ扶助狀況報告書ヲ樣式第二號ニ依リ作成シ且其ノ期間内ノ扶助概況ヲ具シ知事ニ報告スベシ

第十二條 市町村長ハ扶助ニ要スル費用ガ縣ノ負擔ニ屬スベキ者ノ扶助ヲ爲シタルトキハ其ノ母子保護臺帳ノ謄本ヲ添付シ遲滞ナク其ノ旨知事ニ報告スベシ

第十三條 市町村長前項ノ扶助ノ廢止停止又ハ變更ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨知事ニ報告スベシ
 第十四條 市町村長縣ノ負擔スル費用ノ繰替支辨ヲ爲シタルトキハ毎年度七月、十月、一月及四月ノ各十五日迄ニ其ノ三ヶ月間ニ付樣式第三號ニ依ル計算書及支出ニ關スル證憑書類ヲ添付シ知事ニ辨償ヲ請求スベシ

第十五條 市町村長遺留物品ヲ競争入札ニ付セズシテ賣却セントスルトキハ二人以上ヨリ見積書ヲ徵スベシ有價證券ノ賣却ハ公定價格ニ依ルベシ

第十六條 私人ノ設置スル母子保護施設ニ關シ其ノ設置者ヨリ知事ニ提出スル書類ハ其ノ所在地市町村長ヲ經由スベシ

附 則

四 手術料 一人一回一圓但シ齒科手術ハ四十錢

五 検査並ニ注射料一人一圓以内

醫療ノ爲支出スル費用ヒレテ前項ノ區分ニ依ラザル場合ニ於テハ一人一日五十錢ヲ超スルコトヲ得ヌ

前二項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ市町村長ハ知事ノ認可ヲ受ケ其ノ都度之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 入院ノ場合ニ於テ生活扶助及養育扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超スルコトヲ得ズ
病院、産院 一人一日 四十錢

第七條 入院ノ場合ニ於テ醫療ノ爲支出スル費用ハ一人一日四十錢ヲ超スルコトヲ得ズ
前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ市町村長ハ知事ノ認可ヲ受ケ其ノ都度之ヲ定ムルコトヲ得

第八條 生業扶助ノ爲支出スル費用ハ一人ニ付三十圓以内トス

第九條 埋葬ノ爲支出スル費用ハ七圓以内トス

第十條 母子保護施設ヲ設置シタル者其ノ施設ノ利用ニ付使用料ヲ徴セントスルトキハ豫メ知事ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ノ出願ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 使用料徴收ノ程度及方法

本令ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號(表)

母子保護臺帳

第 號	居 住 地 (施設ノ場合ハ施設名ヲ附記)	氏 名	生 年 月 日	扶 助 種 類	扶 助 程 度	扶 助 ノ 開 始 年 月 日	扶 助 ノ 廢 止 年 月 日	摘 要	法第七條ニ依リ注意ヲ爲シタル事項	
									子	母
									考	備

様式第一號 (裏)

扶助出 願月日	昭和 年 月 日	本籍地	居住地																								
氏名		世帯主 トノ續柄	生年月日																								
性別		職業	勞務故障 程度																								
収入		見込月額	居住始期																								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th colspan="2">金額</th> </tr> <tr> <td>内 親族其ノ他 私的援助金品</td> <td>勞働收入</td> <td>食料費</td> <td>住宅費又ハ地代</td> <td>租稅公課</td> <td>負債及 養育費</td> </tr> <tr> <td>譯</td> <td>譯</td> <td>薪費</td> <td>醫藥費</td> <td>扶助義務者ノ 能力</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>炭費</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				収入		支出		金額		内 親族其ノ他 私的援助金品	勞働收入	食料費	住宅費又ハ地代	租稅公課	負債及 養育費	譯	譯	薪費	醫藥費	扶助義務者ノ 能力				炭費			
収入		支出		金額																							
内 親族其ノ他 私的援助金品	勞働收入	食料費	住宅費又ハ地代	租稅公課	負債及 養育費																						
譯	譯	薪費	醫藥費	扶助義務者ノ 能力																							
		炭費																									
同金額		同金額		子女養育ノ適否																							
配偶者ノ有無及 其ノ狀況		母ノ性行其ノ他																									

要扶助事由

備考

(一) (表)ノ記載方

一 「扶助ノ種類」ハ事實上、母子各本人ニ對スル生活扶助、生業扶助、養育扶助、醫療等ヲ記載ノコト

二 「居住地」ハ母子保護施設ニ在ル者ニ付テハ施設所在地ノ外施設名ヲモ記載スルコト

三 「法第七條ニ依リ注意シタル事項」注意ノ内容及其ノ結果等ヲ簡單ニ記載ノコト

四 其ノ他ハ救護法ニ依ル救護臺帳ノ例ニ依リ記入ノコト

(二) (裏)ノ記載方

一 「配偶者ノ有無及其ノ狀況」ハ配偶者有ル場合ハ拘禁、行方不明等ノ如ク記載シ無キ場合ハ死亡、初メヨリ無シ等ノ如ク記載シ各其ノ事由概要ヲ記載スルコト

二 「母ノ性行其ノ他子女養育ノ適否」ハ特記スベキ事項アルモノニ付記載スルコト

三 其ノ他ハ救護法ニ依ル救護臺帳ノ例ニ依リ記載スルコト

四 「居住始期」ハ同一市町村内ニ於ケル移轉ノ場合ハ最初ノ居住始期ヲ記載スルコト
 様式第二號ノ一

自昭和 年 月 日
 至昭和 年 月 日
 分保護異動状況報告

(母子保護施設分又ハ
 其ノ他ノ分)

扶助ノ種類	扶助ノ場所		扶助開始 人員	扶助廢止、 停止 人員	死亡人員	現在員
	居宅	入院				
生活扶助	居宅	入院				
養育扶助	居宅	入院				
醫療	居宅	入院				
生業扶助	居宅	入院				
計	居宅	入院				
摘要						
備考						

- 一 本報告ハ母子保護施設居住者分ト其ノ他ノ分トヲ各別ニ作成シ更ニ三ノ區別ニ從ヒ作製ノコト
 - 二 本報告ハ十月報告ノ場合ハ自四月分ヲ四月報告ノ場合ハ自前年十月分至三月分ヲ掲グルコト
 - 三 本報告ハ扶助ニ要スル費用ノ負擔別ニ依リ縣及市町村ノ各表ヲ作成スルコト
 - 四 同一人ニ對シ二種以上ノ扶助ヲ爲スモノハ扶助ノ種類欄ノ順序ニ依リ記載シ再掲ノ分ニ括弧ヲ附スルコト
 - 五 「生活扶助」ハ母又ハ祖母ノ人員ヲ「養育扶助」ハ子又ハ孫ノ人員ヲ掲グルコト
- 様式第二號ノ二

自昭和 年 月 日
 至昭和 年 月 日
 月分母子保護法實施狀況報告

母	區分	扶助ノ種類		養育扶助		醫療		生業扶助		計	埋葬
		居宅	入院	居宅	入院	居宅	入院	居宅	入院		
實人員											
延人員											
金額		圓	圓			圓	圓	圓	圓	圓	圓

計	醫 療 費			生 業 扶 助 費			埋 葬 費
	居宅入院	居宅	入院	居宅	入院	計	

一金 何程 法第十二條ノ充當金(何人分)

差引金 何程 請求額

備考

- 一 「生活扶助」及「養育扶助」ノ人員金額等ハ様式第二號ノ一、二ノ備考同様ノ區別ニ依リ記載スルコト
- 二 「實人員」ハ同一人ニ對シ二種以上ノ扶助ヲ爲スモノハ種類欄費目ノ順序ニ依リ記載シ再掲シタル分ニ括弧ヲ附スルコト
- 三 「一人一日(又ハ一回)當支出額」欄ノ平均ハ「繰替支辨金額」ヲ「延人員」(生業扶助及埋葬ハ實人員)ニテ除シタルモノヲ記載スルコト
- 四 必要アル場合ニ於テハ本様式ノ外被救護者別ノ繰替支辨金計算書ヲ提出セシムルコト

訓 令

鳥取縣訓令甲第二十三號

市町村長

大正十五年鳥取縣訓令甲第四號農林省統計報告規則及商工省統計報告規則施行細則中左ノ通改正シ
昭和十二年分ノ調査ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

第三條中「但シ農林省、」ヲ「但シ農林省」ニ改ム

(別表) 農林省統計報告期限附本縣統計報告期限表中「第一ニ綠肥用作物」ヲ「第二ニ綠肥用及飼料用作物」ニ、「第五七農家戸口及作付段別」ヲ「第五七農家戸數」ニ改メ次ニ「第五八桑葉」、「第五九養兔」、「第六〇養狸」ノ三表ヲ追加シ「市ノ報告期限」ヲ削除シ「町村ノ報告期限」ヲ「市町村ノ報告期限」ニ改メ其ノ期日ヲ別表ノ通改ム
別冊 第一耕地面積表備考欄ヲ左ノ通改メ別紙附表ヲ追加ス

備考

其ノ他ノ欄増減面積ノ内譯

畑	田	増		減	
		畑間ノ異動	實測ニ依ル増加	畑間ノ異動	實測ニ依ル減少
田ヨリ	畑ヨリ	段	計	段	計
	田へ				

第六 麥豫想收穫高表(注意)一ノ項ヲ削除シ「二」ヲ「一」ニ改メ以下順次繰上グ

第七 麥表様式ヲ別紙ノ通改ム

第九 園藝農産物果實ノ一表中「柚、橙」ヲ削ル

同 果實ノ二表中「其ノ他ノ柑橘類(果實ノ一ヲ除ク)」ヲ「其ノ他ノ柑橘類(ミカンヲ除ク)」ニ改ム

同 果實ノ四表中

梨	
日本梨	西洋梨

ヲ

梨	
日本	廿世紀
西洋梨	其ノ他

ニ改メ

柿ノ中「澁柿」「栗」ヲ削除ス

同 蔬菜及花卉ノ一表中「筍」ヲ「苺」ニ改ム

同 蔬菜及花卉ノ二表中「京菜」「大葉芥菜」及「欸冬」ヲ削除ス

同 蔬菜及花卉ノ三表中「漬菜」ノ次ニ「菠薐草」ヲ加ヘ(注意)一ノ項ヲ削除シ「三」ヲ「二」ニ改メ以下順次繰上グ

第一一 綠肥用及飼料用作物表様式ヲ別紙ノ通改ム

第一五 桑畑表様式ヲ別紙ノ通改ム

第一八 春蠶豫想收穫高表(注意)一ノ項ヲ削リ「二」ヲ「一」ニ改メ以下順次繰上グ

第一九 春蠶及第二夏秋蠶表様式ヲ別紙ノ通改ム

第二七 蠶網及第二八囊製品表中各「職工」ノ欄ヲ削除ス

第四〇 水産業者中「戸數」ノ欄ヲ削除ス

第五三 林野産物表中「椎茸」ノ次ニ「其ノ他菌茸類」ヲ、「醋酸石灰」ノ次ニ「茯苓」ヲ加ヘ「根類」ノ欄ヲ削リ(注意)二ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三、一束ノ數量ハ地方慣行ノモノニ依ルベシ但シ其ノ數量ハ備考欄ニ之ヲ記載スベシ

第五六 木炭表様式ヲ別紙ノ通改ム

第五七 農家戸數、第五八桑葉、第五九養兔、第六〇養狸表樣式ヲ各別紙ノ通定ム

(別表) 商工省統計報告期限附本縣統計報告期限表中「第二七菓子類、飴及餅」ニ改メ「第二九加工用材」ヲ削リ「第三〇」ヲ「第二九」ニ改メ以下順次繰上グ

「第三四商業者戸口」及「第三五工業者戸口」ヲ削除シ「第三六味噌」ヲ「第三三醬油及味噌」ニ「第三七」ヲ「第三四」ニ改メ次ニ「第三五漬物」ヲ追加シ「市ノ報告期限」ヲ削除シ「町村ノ報告期限」ヲ「市町村ノ報告期限」ニ改メ其ノ期日ヲ別表ノ通改ム

「第二四和紙」「第二五各種工產物」「第二六賣藥」表樣式ヲ各別紙ノ通改ム

第二七 菓子類、飴及餅表樣式ヲ別紙ノ通定ム

第三一 諸車表樣式ヲ別紙ノ通改ム

第三二 小船表(注意)二中「範圍外ニ屬スル小船」ノ次ニ「(即チ總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟但シ漁船ヲ除ク)」ヲ加ヘ三ノ項ヲ削除シ左ノ二項ヲ加フ

三、本調査ハ船籍アルモノハ船籍所在ノ市町村、船籍ナキモノハ所有者所在ノ市町村ニ於テ調査スベシ

四、免稅ニ係ルモノハ※印ヲ附シ外書スベシ

「第三三醬油及味噌」及「第三五漬物」表樣式ヲ各別紙ノ通定ム

(別表)

農林省統計報告期限

附本縣統計報告期限

表號	表名	市町村ノ報告期限
第一	耕地面積	翌年 一月二十日
第二	水稻作況	其ノ年 八月十八日
第三	米 第一回豫想收穫高	同 九月二十三日
第四	米 第二回豫想收穫高	同 十一月三日
第五	米	同 十二月二十日
第六	麥 豫想收穫高	同 五月二十三日
第七	麥	同 七月末日
第八	食用農產物	同 十二月二十日
第九	園藝農產物	

第一〇	工藝農產物	翌年	二月二十日
	果實ノ一	其ノ年	八月二十日
	果實ノ二	同	九月末日
	果實ノ三	同	十二月末日
	果實ノ四	同	十二月末日
	蔬菜及花卉ノ一	同	八月末日
	蔬菜及花卉ノ二	同	十一月十日
	蔬菜及花卉ノ三	翌年	二月末日
第一〇	工藝農產物	其ノ年	四月二十日
	其ノ一	同	十月末日
	其ノ二	同	十月末日
	其ノ三	同	十二月末日
第一一	綠肥用及飼料用作物	同	七月末日
第一二	果樹園	同	七月二十日

第一三	茶畑	同	七月二十日
第一四	製茶	同	十月末日
第一五	桑畑	同	七月十日
第一六	桑苗	同	六月十五日
第一七	春蠶豫想掃立數量	同	五月四日
第一八	春蠶豫想收購高	同	六月四日
第一九	春蠶	同	七月二十日
第二〇	夏秋蠶豫想掃立數量	同	九月四日
第二一	夏秋蠶豫想收購高	同	九月二十六日
第二二	夏秋蠶	同	十一月二十日
第二三	天蠶及柞蠶	同	
第二四	蠶絲類	翌年	一月二十日
第二五	真綿	同	

第二六	天蠶絲及柞蠶絲	同
第二七	蠶網	同
第二八	蠶製品	同
第二九	牛	同
第三〇	牛乳	同
第三一	馬	同
第三二	豚	同
第三三	緬羊	同
第三四	山羊	同
第三五	鷄	其ノ年 七月二十日
第三六	鶯	同
第三七	蜜蜂	翌年 一月二十日
第三八	屠殺	同 一月末日

第三九	乳肉製品及罐詰	同
第四〇	水產業者	同 一月末日
第四一	漁船	同
第四二	遭難漁船	同
第四三	沿岸漁獲物	同
第四四	遠洋漁業	同
第四五	水產養殖	同
第四六	水產製造物	同
第四七	寒天	其ノ年 四月十日
第四八	公私有林野面積	翌年 二月末日
第四九	公私有造林用苗木	同
第五〇	公私有林野人工造林	同 三月末日
第五一	公私有林野天然造林	同

第五二	公私有林伐採	同	同
第五三	林野產物	同	二月末日
第五四	公私有林野放牧	其ノ年	十一月末日
第五五	公私有林野被害	翌年	二月末日
第五六	木炭	同	同
第五七	農家戶數	同	同
第五八	桑葉	其ノ年	十一月末日
第五九	養兔	同	同
第六〇	養狸	同	同

(別表)

商工省統計報告期限

附本縣統計報告期限

表號	名	市町村ノ報告期限
第一	綿織物	翌年 一月末日

第二	絹織物及絹綿交織物	同	同
第三	麻織物及麻交織物	同	同
第四	毛織物及毛交織物	同	同
第五	晒及染物	同	同
第六	メリヤス製品	同	二月末日
第七	帽子	同	同
第八	陶磁器	同	同
第九	瓦及土管	同	同
第一〇	漆器	同	同
第一一	製革	同	同
第一二	皮革製品	同	同
第一三	製藍	其ノ年	八月末日
第一四	植物油	翌年	二月末日

第一五	澱粉	其ノ年	七月末日
第一六	木製品	翌年	三月二十日
第一七	竹製品	同	
第一八	籐製品	同	
第一九	杞柳製品	同	
第二〇	刷子及刷毛	同	
第二一	麥稈經木及麻真田	同	
第二二	疊表、莫蔴及花蔴	同	
第二三	石材、土石及鑛水	同	二月末日
第二四	和紙	同	
第二五	各種工產物	同	三月末日
第二六	賣藥	同	四月十日
第二七	菓子類、飴及餅	同	

第二八	石材製品	同	
第二九	物價	同	
第三〇	貨錢	同	
第三一	諸車	同	四月末日
第三二	小船	同	
第三三	醬油及味噌	同	三月末日
第三四	麵類	同	
第三五	漬物	同	

第一附表		自作、小作別耕地面積	昭和何年十二月末日現在
畑	自作地	段	計
	小作地		
田	自作地	段	計
田	小作地	段	計

備考

(注意)

- 一 本表田畑ノ計數ハ第一耕地面積年未現在ト必ズ符合スベキモノトス
- 二 耕地面積ハ耕地所在ノ當該市町村ニ於テ之ヲ調査スベシ

第七 麥

小

昭和何年

大麥	作付段別		收	穫	高	一段步收穫高	價	額	單價
	田	畑							
計					石	合		圓	錢
畑									
田									
計									
計									

小麥

稈麥

大麥

燕麥	作付段別		計
	田	畑	
計			
畑			
田			
計			
計			

備考

(注意)

- 一 大麥、稈麥及小麥ノ作付段別ハ改メテ之ヲ調査スルコトヲ要セズ、豫想收穫高報告ノ際報告シタル段別ヲ掲グベシ但シ豫想收穫高報告ノ際報告シタル段別ニ付誤謬アリタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨備考欄ニ記載スベシ
- 二 收穫高ノ調査ハ農作者ニ對シテ訊問又ハ農作者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ状況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徵シ尙必要ニ應ジ參考ノ爲標準ト認ムベキ箇所ニ付坪刈ヲ行ヒ調査區ニ於ケル田畑各別ニ作柄ノ良否ニ應ジ數個ノ等級ニ分チ一段步當ノ收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘ジテ算

- 出ナル等各市町村ノ情況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ベキ方法ヲ選ブベシ
- 三段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セザル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス
- 豫想收穫高及前年收穫高ニ比シ増減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スベシ
- 五 氣候ノ適否、施肥ノ多少發育ノ經過及病虫害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スベシ

第一一 緑肥用及飼料用作物

昭和何年

作物	作付段別				收穫高				價額
	田	畑	計	田	畑	計	段		
レ									
ン									
ゲ									
計									
モクシユク (苜蓿)									
ソラマメ、エンドウ									
青刈大豆									
其ノ他									

緑肥作用物

作物	飼料			
	モクシユク (苜蓿)	ソラマメ、エンドウ	青刈大豆	其ノ他
レ				
ン				
ゲ				
計				

備考

(注意)

- 一 緑肥用作物ノ欄ニハ緑肥ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノヲ調査シ、飼料用作物ノ欄ニハ飼料ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノヲ調査スベシ
- 二 作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルベシ

於テ調査スベシ

- (イ) 農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スベシ
- (ロ) 土地臺帳ノ地目面積ノ如何ニ拘ラズ實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スベシ
- (ハ) 病虫害、風水害等ノ爲收穫皆無ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スベシ

(三) 混作又は間作ハ相互ニ影響ヲ受ケタル限度ニ於テ甘ク作付既知ヨリ自積リ、酢酸等ノ加加以外ニ作付ヲ爲シタルモノハ附近ノ畑段別ニ準ジ其ノ段別ヲ見積ルベシ

三 收穫高ハ秋蒔、春蒔タルヲ間ハズ總テ收穫期ニ於ケル生草ノ數量ヲ記載スベシ

第一五 桑畑

昭和何年六月末日現在

備考	計	立通	高刈	中刈	根刈	段別		
						本畑	其ノ他	計

(注意)

一 根刈トハ地上一尺未満ヲ、中刈トハ同一尺以上三尺未満ヲ、高刈トハ同一尺以上ヲ主幹トシ枝條ヲ伐截スルモノヲ謂ヒ立通トハ一定ノ剪枝ヲ行ハザルモノヲ謂フ

二 段別ハ土地臺帳面ノ地面積ノ如何ニ拘ラズ實際栽培ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スベシ

三 採葉ノ樹齡ニ達セザルモノト雖其ノ段別ヲ調査スベシ

四 畑ノ本畑欄ニハ桑ヲ主作物トスル畑ノ段別ヲ記載シ、畑ノ其ノ他ノ欄ニハ混作間作セラレタルモノヲ仕立方ニ依リ各其ノ附近ノ本畑段別ニ準ジ其ノ段別ヲ見積リ記載シ其ノ他ノ欄ニハ畦畔其ノ他畑以外ニ栽培ヲ爲シタルモノヲ仕立方ニ依リ各其ノ附近ノ本畑段別ニ準ジ其ノ段別ヲ見積リ記載スベシ

第一九 春蠶

昭和何年

養蠶戸數	白繭種		黃繭種		計
	數量	價額	數量	價額	

上	繭 (生繭)	貫	圓	錢	貫	圓	錢	貫
玉	繭 (生繭)							
屑	繭 (生繭)							
計								
備考								

(注意)

- 一 養蠶戸數ハ其ノ季節ニ於テ養蠶ニ從事シタル戸數ヲ記載スベシ
- 二 白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黄色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ
- 三 原蠶種及蠶絲業法施行規則第百十六條ノ規定ニ依リ製造シタル普通蠶種ハ二十八蛾又ハ二夕五分ヲ以テ九・三七五グラムニ換算スベシ
- 四 蠶種掃立數量ハ中途投棄シタル蠶兒ニ係ルモノト雖總テ之ヲ調査スベシ
- 五 上繭トハ普通ノ形態ヲ有シ且汚染セザル完全ナル繭ヲ謂ヒ玉繭トハ二以上ノ蠶兒ノ合同シテ營ミタル繭ヲ謂ヒ屑繭トハ上繭及玉繭以外ノ繭ヲ謂フ

六 收購高ノ調査ハ飼育者ニ對スル訊問又ハ飼育者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル蠶種一グラム當ノ收購高ヲ決定シ之ヲ掃立數量ヨリ無收購掃立數量ヲ控除シタルモノニ乗ジテ算出スル等各市町村ノ情況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ベキ方法ヲ選ブベシ

七 豫想收購高及前年收購高ニ比シ増減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スベシ

八 氣候ノ適否飼育ノ經過及桑葉ノ過不足等ヲ備考欄ニ記載スベシ

第二二 夏 秋 蠶

昭和 何 年

養蠶戸數	白繭種	黃繭種	計
蠶種掃立數量	瓦	瓦	瓦
數量	貫	圓	錢
價額	圓	錢	貫
單價	錢	貫	圓
數量	貫	圓	錢
價額	圓	錢	貫
單價	錢	貫	圓
數量	貫	圓	錢
價額	圓	錢	貫
單價	錢	貫	圓

屑 繭 (生繭)

計

備考

(注意)

- 一 養蠶戶數ハ其ノ季節ニ於テ養蠶ニ従事シタル戸數ヲ記載スベシ但シ其ノ季節ニ於テ數回飼育スルモノ一戸トシテ之ヲ計算スベシ
- 二 白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黃色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ
- 三 原蠶種及蠶絲業法施行規則第百十六條ノ規定ニ依リ製造シタル普通蠶種ハ二十八蛾又ハ二匁五分ヲ以テ九・二七五グラムニ換算スベシ
- 四 蠶種掃立數量ハ中途投棄シタル蠶兒ニ係ルモノト雖總テ之ヲ調査スベシ
- 五 上繭トハ普通ノ形態ヲ有シ且汚染セザル完全ナル繭ヲ謂ヒ玉繭トハ二以上ノ蠶兒ノ合同シテ營ミタル繭ヲ謂ヒ屑繭トハ上繭及玉繭以外ノ繭ヲ謂フ
- 六 收繭高ノ調査ハ飼育者ニ對スル訊問又ハ飼育者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テ

- ハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ聞キ調査區ニ於ケル蠶種一グラム當ノ收繭高ヲ決定シ之ヲ掃立數量ヨリ無收繭掃立數量ヲ控除シタルモノニ乘ジテ算出スル等各市町村ノ情況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ベキ方法ヲ選ブベシ
- 七 豫想收繭高及前年收繭高ニ比シ増減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スベシ
- 八 氣候ノ適否飼育ノ經過及桑樹ノ發育等ヲ備考欄ニ記載スベシ

第五六 木 炭

昭和何年

年	末		現		在	製	造	高
	男	女	計	夫				
製造戸數								
白炭								
黒炭								
計								
備考								

(注意)

- 一 國有、公有、社寺有、私有ノ林野ニ於ケル總産額ヲ調査スベシ

- 二 價額ハ山元相場ニ依ルベシ
- 三、白炭トハ白消法（通常窯外消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト看做スベキ装置ヨリ取出シテ消火スル方法）ニ依リ製シタルモノヲ謂ヒ黒炭トハ黒消法（通常窯内消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト看做スベキ装置内ニテ消火スル方法）ニ依リ製シタルモノヲ謂フ
- 四、鍛冶炭ハ全部黒炭トシテ調査スベシ

第五七 農 家 戸 數

昭和何年十二月末日現在

備 考	計	農 家 戸 數			計
		自 作	自作兼小作	小 作	
農作ヲ主トスルモノ		戸	戸	戸	戸
農作ヲ從トスルモノ					

(注 意)

- 一 本表ニ於テハ當該市町村内ニ住所又ハ居所ヲ有シ田畑耕作及園藝作ヲ爲スモノアル世帯ヲ調

査スベシ

- 二 自作トハ自作地ノミニ於テ農作ヲ爲スモノヲ謂ヒ小作トハ小作地ノミニ於テ農作ヲ爲スモノヲ謂ヒ自作兼小作トハ兩者ヲ兼ヌルモノヲ謂フ
- 三 農作ヲ主トスルモノトハ主トシテ農作ニ依リ生計ヲ營ムモノヲ謂ヒ農作ヲ從トスルモノトハ農作ヲ主トスルモノ以外ノモノヲ謂フ
- 四 組合町村ニ付テハ各町村毎ニ夫々調査計上スベシ

第五八 桑 葉

昭和何年

備 考	計	收 穫 高 價		額 單 價	價 錢
		春 蠶 用	夏 秋 蠶 用		
		貫	貫	圓	

(注 意)

- 一 收穫高ハ自家養蠶ニ供シタルト販賣シタルトヲ問ハズ總テ採葉シタルモノヲ調査スベシ

第五九 養 兔

昭和何年十月末日現在

飼養戶數	頭數			生產數	價額	頭當價額
	五頭以上十頭未滿	十頭以上二十頭未滿	二十頭以上			
計						
牝						
牝						
計						
備考						

第六〇 養 狸

昭和何年十月末日現在

飼養戶數	頭數			生產數	價額	頭當價額
	五頭未滿	五頭以上十頭未滿	十頭以上二十頭未滿			
計						
牝						
牝						
計						
備考						

飼養戶數	頭數			生產數	價額	頭當價額
	八箇月以上八箇月未滿	八箇月以上八箇月未滿	八箇月以上八箇月未滿			
計						
牝						
牝						
計						
備考						

製 造 戶 數
 第二四 和 紙
 昭和何年

備考	計	其 ノ 他	半 切 紙	半 紙	規 格 判 紙	美 濃 紙	職 (年末現在)工		
							計	女	男
							數	量	價
							縮	額	單
							圓	價	價
								錢	

(注意)
 一 美濃紙ハ五十枚ヲ以テ一帖、五十帖ヲ以テ一縮トシ規格判紙及半紙ハ二十枚ヲ以テ一帖トシ各

船	船	帆 船	製造場數		職 工 (年末現在)	數 量	價 額	單 價
			男	女				
其 ノ 他	發 動 機 船	漁 船	(年末現在)			隻	圓	錢
			其 ノ 他					
小 廻 船	漁 船	帆 船	(年末現在)			隻	圓	錢
			其 ノ 他					
ボ ー ト	漁 船	帆 船	(年末現在)			隻	圓	錢
			其 ノ 他					
其 ノ 他	漁 船	帆 船	(年末現在)			隻	圓	錢
			其 ノ 他					

百帖ヲ以テ一縮トス、半切紙ハ千枚ヲ以テ一縮トス
 二 美濃紙ハ三楹及楮ヲ原料トセル美濃判ノモノ一切ヲ含ム
 三 規格判紙ハ日本標準規格B列第四號(縱二五七耗、橫三六四耗)ニ依ルモノトス
 四 障子紙、傘紙、塵紙及其ノ他ノ紙ハ總テ其ノ他ノ欄ニ記入スベシ

第一五 各種工産物

昭和何年

計	其ノ他	
扇子・及團扇	個	
玩具(陶磁器製ヲ除ク)		
傘	本	
笠(竹皮、菅、檜、其ノ他)	枚	
提燈	張	
煉瓦	個	
煉炭	個	
椅子(木骨及鐵骨製)	個	
棕櫚製品		
ノキ		
砂箸海松細工	個	

計	其ノ他	
合・計		
其ノ他		
金屬製品		
紙製品		
足袋		
木蠟		
漆		
柿澁		石
貝灰		
石灰		貫
石風		
解		
備考		

(注意)

- 一 二種以上製造スルモノノ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ之ヲ記入スベシ
- 二 自家用ハ調査ヲ要セズ
- 三 金屬製品ノ欄ニハ車輛、農具ヲ除キ鐵、銅、亞鉛、金、銀、其ノ他ノ金屬製品ハ總テ調査スベシ

第二六 賣 藥

昭和何年

	製造戸數 (年未現在)	職 工 (年未現在)		價 額
		男	女	
煎 藥				
散 藥				
丸 藥				
膏 藥				
煉 藥				
其ノ他				
計				

備考

(注意)

一二種以上ヲ製造スルモノノ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ之ヲ記入スベシ

第二七 菓子類、飴及餅

昭和何年

	製造場數 (年未現在)	職 工 (年未現在)		價 額
		男	女	
菓子類				
パン類				
飴				
餅				
計				

備考

(注意)

一 二種以上ヲ製造スルモノノ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ之ヲ記入スベシ

第三一 諸 車

昭和何年三月末日現在

備考	自動車	自	自	普通	荷馬車	荷牛車	荷車	人力車	計
		轉	動						
	乗用	荷積用	乗用	荷積用					
			(三輪ノモノヲ含ム)						

(注意)

一 本調査ハ車籍アルモノハ車籍所在ノ市町村、車籍ナキモノハ所有者所在ノ市町村ニ於テ調査スベシ

- 二 自家用、營業用及官公署所有ノ如何ヲ問ハズ總テ調査スベシ
- 三 免稅ニ係ルモノハ※印ヲ附シ外書スベシ
- 四 荷車ハ其ノ形狀ノ如何ニ不拘人力ニ依ル荷積用ヲ記入スベシ但シ木輪ノモノ及丁稚車ハ調査ヲ要セズ
- 五 自轉車ハ其ノ形狀ノ如何ニ不拘發動機ニ依ルモノハ自動ノ欄ニ人力ニ依ルモノハ通常ノ欄ニ記入スベシ

第三三 醬油及味噌

昭和何年

合 計	味・噌	醬油	製造戸數 (年末現在)	職 工		數量	價 額	單 價
				男	女			
	赤	白				石	圓	錢
	計					貫		

備考

第三五 漬物

昭和何年

製造場數
(年末現在)

職工數
(年末現在)

計 女 男

數量 價額 單價

貫 圓 錢

澤庵							
梅干							
奈良漬							
其他							
計							

備考

(注意)

一 其ノ他ノ欄ニハ肉類及水産品ニ係ルモノノ調査ヲ要セズ

◆鳥取縣訓令甲第二十四號

市町村長

昭和二年鳥取縣訓令甲第五號鳥取縣市町村統計事務處理規程別冊中左ノ通改正シ昭和十三年報告ノ分ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事 立田清辰

一 統計報告期限中「市町村吏員表」ヲ「市町村吏員並名譽職參事會員表」ニ「第四各種團體表翌

年一月末日」ヲ「第四職業別戶數及人口翌年二月末日」ニ「土木費總計表」ヲ「土木費表」ニ

「水道表 其ノ一翌年四月十五日」ヲ「水道表其ノ一翌年四月十五日」ニ改メ第十四ノ次ニ左ノ一

項ヲ追加シ「第十五」ヲ「第十六」ニ改メ以下順次番號ヲ繰下グ

第一五水道表其ノ二翌年五月末日

- 一 第一 市町村會表注意一ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
- 二 選舉權ヲ有スル者ノ内ニハ議員ヲ包含スベシ
- 三 選舉權ヲ有スル者ノ調ハ十二月二十五日ノ現在ニ依リ難キモノハ最近調査ノ現在數ヲ掲ゲ其ノ日ヲ附記スベシ

- 一 第三 市町村吏員並ニ名譽職參事會員表、同附表ノ市町村吏員諸給與表様式ヲ各別紙ノ通改ム
- 一 第四 職業別戸數及人口表ヲ別紙ノ通改ム
- 一 第六 病院表一公私立病院注意二中「及軍用ノ病院」ヲ削除シ注意五ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ「六」ヲ「七」ニ改メ以下番號ヲ繰下グ

六 代用花柳病診療所ト指定セラレタル病院ニ於ケル代用診療所トシテノ患者收容定員及患者數ハ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ掲グベシ

同表ニ施療病院注意一ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ注意五ヲ「自費患者及公費其ノ他ノ委託有料患者ハ之ヲ他ト區別シ前者ハ「※」印ヲ後者ニハ「×」印ヲ附シテ掲グベシ」ニ注意「二」ヲ「三」ニ改メ以下順次番號ヲ繰下グ

二 本表ニ於テ施療トハ無料ヲ以テ診療ヲナスモノニシテ假令無料診療券等ニ依リ診療ヲナシタル場合ニ於テモ其ノ診療券ニ對シ他ヨリ收入ヲ受ケザルモノヲ謂フ

一 第七 災害表様式中「雨及畑ノ生毛ノ損失計ノ單位」ヲ削リ員數欄ニ「」ヲ畫シ注意事項ヲ左ノ通改ム

一 本表ハ内務省直轄並事竝知事ノ管理ニ屬スルモノノ災害ニ付テハ之ヲ除キ一箇年間ニ於ケル管内各地水害ノ狀況ヲ調査シ各河川流域毎ニ調製シテ報告スルモノニシテ尙海嘯、暴風雨、霖雨、雪、震災、噴火、地辻、土地陥没、山地崩潰ヲ限リ是亦本表ノ式ニ倣ヒ各別表ニ作成シ且河水汎濫ニ起因セザル水害ト雖モ之ヲ調査スベシ但シ報告スベキ事實無クトモ必ズ其旨申報ス

二 雪害ニ係ルモノハ暴風雨ト混同セズ必ズ之ヲ別表トシ又融雪ニ起因スル水害モ雨水ニ依ル水害ト分離シ流域名明記ノ上是亦別表ニ作成スルヲ要ス

三 單川ニ非ザル河川ノ水害表ニハ幹川ハ勿論支派川小支派川池沼湖等其ノ流域内ニ屬スル一切ノ損害高ヲ合算スベシ但シ他府縣ニ流末ヲ有スル河川ノ上流若クハ支派川タルモノノ水害表ニハ其ノ表題ニ何川上流或ハ何川支派ト添記シ其ノ脈絡ヲ明カニスルヲ要ス

四 支派川等流域ノ一部ニ大水害アリシ場合ニハ内譯表トシテ特ニ別表ニ調製シ又支派川等ニシテ沿水上利害ノ關係重大ナルモノ例ヘバ利根川ノ渡良瀬川、江戸川、揖斐川、長良川、淀川、木津川、桂川、九頭龍川ノ日野川、足羽川ニ於ケルノ類ハ豫メ各地方ニ於テ其ノ調査河川ヲ定メ置キ

被害ノ多少ニ係ラズ是亦内譯表トシテ毎年各別ニ製表シテ報告スベシ

五 甲河川流域ニ出水アリテ乙河川流域内ニ波及シタル場合ニハ其ノ乙河川流域ノ分ヲモ合算シテ製表シ乙河川流域同時ニ出水シタル場合ニハ各流域毎ニ適當ニ分割シテ調製スベシ

六 暴風雨ニ伴ヒ潮ノ漲襲ヲ來シタル陸上ノ被害及船舶ノ流損等ハ假令其ノ原因ガ暴風雨タリトモ之ヲ潮害トシテ合掲製表スルヲ要ス

七 内務省直轄ニ係ル河川工事又ハ港灣工事道路工事等ニシテ府縣ニ於テ未ダ引繼ヲ受ケザル工作物ノ被害ハ表中ニ記載スルヲ要セズ

八 用悪水ノ欄ニ掲グベキ溜池トハ天然ト人工トニ係ラズ灌漑ノ用ニ供スル爲施設シタル公共水路ノ水源ヲ爲スモノヲ云フ

九 橋梁ノ欄ニハ長サ二米以上ノモノ及土厚一米未滿ノ土橋ノミヲ掲上スベシ

一〇 發電水力ニシテ國營ノモノアラバ〔○〕ヲ附シテ區分掲上シ軌道ニハ全然國營ヲ加ヘザルモノトス

一一 河川及至軌道ノ土木工事ニ關スル損失償額ハ總テ再築見積額ヲ記入スベシ

一二 建物ノ毀損ニハ半潰ニ近キ程度ノ被害ヲ掲記シ輕微ナル損害ハ調査スルヲ要セズ但シ建物住家、非住家ノ區分ニ就テハ左ノ例ニ依ルベシ

住家トシテ算スベキモノハ大要左ノ如シ

- 一 人ノ居住ニ充ツル目的(現住非現住ヲ問ハズ)トスル建物
- 二 人ノ收容ヲ目的トスル建物及之ニ準ズベキモノ

- (一) 官公署廳舎(二) 學校、圖書館(三) 神社、佛閣(堂守其ノ他ノ監守者アルモノ)(四) 教會、說教所ノ類(五) 公會堂其ノ他公共用ニ供セラル建物(六) 銀行、會社、法人等ノ事務所又ハ營業所(七) 工場(八) 娛樂場建物(九) 停車場建物(十) 病院 (一) 寄宿舎非住家トシテ算スベキモノノ大要左ノ如シ
- 一 倉庫、土藏、車庫
- 二 納屋、物置、
- 三 税關上屋
- 四 神社、佛閣(堂守其ノ他ノ監守者ナキモノ)

一三 田畑流失埋没ノ部ニハ作付ノ有無ニ關セズ損害ヲ受ケタル土地(耕地トシテノ効用ヲ失ヒタルモノ)ノ面積ト其ノ時價トヲ掲グ損失アル浸水ノ部ニハ年季荒等ノ段別單其ノ損害額(再ビ作付シ得ル迄ニ二年以上ノ時日ヲ要スルモノ)ノ平年作ヲ標準トスル其ノ期間内ノ收穫損失及障害物除去、置土等ノ復舊ニ要スル費用見積額)トヲ掲グ無害浸水ノ部ニハ土地ニ損害ヲ及ボサザリシ浸水面積ヲ記入シ生毛ノ損失ノ項ニハ土地ノ流失如何ニ係ラズ生毛全部ノ損害ヲ見積リ

一四 田畑等ノ被害ニシテ「ヘタタール」ニ滿タザルモノアリシトキハ「アール」ヲテ掲記シ其ノ
 單據ヲ明ニ記入スベシ提斐欄ノ汎濫面積亦同ジ

一五 其ノ他ノ諸損害ノ欄ニハ前記各欄ニ該當セザル器具、機械、貯藏物品、動植物其ノ他既製未製
 ノ諸商品等直接損害ヲ受ケタル諸物品ノ損失價額ヲミテ記入スベシ

一六 提要ノ欄各圖ヲ通ジタルモノノ欄ニハ二回以上ノ被害アリシ場合ニ於ケル重複ヲ避ケタル事
 實ヲ掲グベシ

一七 被害都市町村名ノ項ニハ堤防又ハ河岸ノ闕損橋梁ノ流損等ニ止マリ陸上ニ被害ヲ及ボサザリ
 シ場合ト雖モ其ノ地先町村名ヲ記入スベシ

一 第八 土木費表様式中「昭和 年度」ヲ「何年度決算」ニ注意事項ヲ左ノ通改ム

一 本表ハ市町村ニ於テ一箇年度間ニ支出シタル土木工費其ノ他土木ニ關スル經費ノ決算額ヲ類別
 シ一表ニ調製シテ報告スベシ但シ起債償還額、各種會議費、公園及墓地ニ屬スル費額ハ之ヲ掲
 上スベカラズ

二 市町村費、組合費トモ決算報告書アルモノハ其ノ報告書ニ記載シタル土木ニ關スル諸費ト本表
 金額ト共ニ符合スベキモノナリ若シ符合セザルモノアルトキハ其ノ金額及事由ヲ備考ニ於テ

説明スベシ

三 水利組合等事業欄ニハ普通水利組合、水害豫防組合、水利土功會、土功組合等ニ係ル經費ヲ記
 入スベシ

四 決算報告書ニ土木費トシテ記載セズ別款(都市計畫、勸業、教育費等)ヲ以テ整理シタルモノ
 ト雖モ繼年改良工事其ノ他特種ノ工事ニシテ本表調査事項ニ該當スルモノ及之ニ關係アル諸費
 ハ悉皆本表ニ掲上スベシ但シ備考ニ於テ詳説スルヲ要ス

五 工事ニ着手セズト雖モ測量費、材料購入費等ノ支出アリシ時ハ其ノ目的ニ依リ表中ニ記入スベ
 シ

六 工事完了ノ結果國庫補助金ニ剩餘ヲ生ジ一般歳入ニ編入シタル場合ニハ其ノ金額ヲ備考ニ記入
 スベシ

七 内務大臣ニ於テ施行スル河川、道路、港灣工事ノ費用ニシテ府縣ノ負擔シタル國庫納付額ハ之
 ヲ表中ニ掲上セズ必ズ備考ニ記述スベシ

八 國庫補助ニ係ル舊外國人居留地ニ要セシ土木費ハ各工事ニ區別シ符號ヲ附シテ別掲スベシ
 九 其ノ年度ニ於テ受ケ入レタル國庫補助金ニシテ其ノ工費支出額ヨリ多額ナル場合ニハ按分法ニ
 依リ其ノ支出額ニ對スル補助金ヲ算出掲上シ殘額ヲ次年度以後ニ於テ整理スベシ

- 一〇 市、町村、水利組合等ノ各事業欄ニハ土木ニ專屬スル吏員費又ハ委員費ヲモ掲上スベシ
- 一一 勞力及物件ノ寄附ハ之ヲ換算シテ寄附金其ノ他ノ欄ニ記入スベシ
- 一二 各都ノ雜費ハ河川、道路、橋梁、灌漑等出來得ル限り之ヲ區別シテ其ノ所屬ノ工費ニ併算シ止ムラ得ザルモノノミヲ各種別ニ區別シ能ハザル諸費ノ欄ヘ記入スベシ
- 一三 河川ノ源ヲ成ス池沼湖又ハ河川ノ一部ヲ成ス池沼湖竝ニ其ノ池沼湖ニ注入スル諸川ニ要シタル經費ハ悉ク一川ノ流域中ニ包括セシムシ
- 一四 某川流域中ノ小支派川又ハ小々支派川等ニシテ重要ト認ムルモノハ支派川ト區別シテ記入スベシ
- 一五 某川流域ト冠シタルモノノ外單ニ某川、某疏水等トアルモノハ支派川ヲ有セザル單獨ノ河川等ヲ指シタルモノニシテ單ニ某池沼湖トアルモノハ河川流域ニ屬セザル池沼湖ヲ指セルモノナリ
- 一六 河川ノ幹支派川ヲシテ他府縣ヘ流出シ又ハ他府縣ヨリ流入スルモノハ其ノ河川名ノ側ニ〔※〕印ヲ附シ對岸ノ他府縣ニ屬スルモノハ〔×〕印ヲ附シ區別スベシ尙管内ニ同名稱ノ河川アルトキハ其ノ河川名ノ下ニ各流末地名ヲ附記シテ所在ヲ明ニスベシ
- 一七 道路、橋梁トモ路線別ノ掲記ヲ要セザルモノハ河川、港灣、用惡水、水道、下水道、砂防ニ表式ニ示スガ如ク必ズ夫々別掲スルヲ要ス

- 一八 用惡水中某用水、某惡水トハ管内ニ於ケル其ノ著名ナルモノノミヲ謂フ
- 一九 溜池ニ係ル工費ハ砂防費ヲ除クノ外總テ用惡水ノ部ニ掲ゲ河川流域ノ池沼湖ト混同スベカズ
- 二〇 下水道中某下水道トハ改良工事ヲ施行シタルモノノミヲ謂フ
- 二一 表式ニ掲記シタル課目以外ノ支出アリシトキハ適宜之ヲ記入シ又實際其ノ年度内ニ補助金等無キ場合ハ勿論總テ登錄スベキ事實ナキトキハ其ノ欄ヲ除キテ製表スルヲ妨グズ
- 二二 新築改築工事ノ部ニハ河川ニ在リテハ新ニ河川ヲ開鑿シ或ハ堤防ヲ新設シ若ハ其ノ位置ヲ變更スルモノ、道路ニ在リテハ新規ニ道路ヲ開設シ或ハ在來道路ノ一部ニ就キ屈曲ヲ直線トシ若ハ道敷ヲ擴張スルノ類ヲ掲グベシ
- 二三 改修工事又ハ災害工事等ニシテ其ノ工事數年ニ亘ルモノハ當該年度内ニ於テ支出シタル工費ノミヲ掲グベシ
- 二四 新築、改築工事費ト修繕又ハ復舊工事費ト區分シ難キ場合アルトキハ主ナル一方ニ記入シ備考ニ於テ説明スベシ
- 二五 除却工事ニ係ルモノアルハ新築、改築工事ノ部ニ符號ヲ附シテ別掲スベシ
- 二六 災害土木費ノ項ニハ災害ノ表ニ掲ゲタル事項ノ善後工事ニ屬スル經費ヲ記入スベシ
- 二七 雜支出ノ部ニハ新築、改築、除却、修繕、復舊ノ各工事ニ區分シ得ザル工事ノミヲ掲グルモ

三 其ノ他市吏員ノ事項中理事、書記、事務員、所長、病院長、醫員、藥劑員、其ノ他ノ各項ハ左記ニ依リ記載スベシ。「理事ノ項ニハ部長」ヲ、「書記ノ項ニハ書記長及司書」ヲ、「事務員ノ項ニハ事務長」ヲ、「所長ノ項ニハ研究所長及紹介所長等」ヲ、「病院長ノ項ニハ醫長又ハ技師ニシテ病院長ノ職ニアルモノ及療養所長又ハ保養院長等」ヲ、「醫員ノ項ニハ病院長ニ非ラザル醫長及技師等」ヲ、「藥劑員ノ項ニハ藥局長及調劑員」ヲ、「其ノ他ノ項ニハ列記外ノ吏員(備人ヲ除ク)ヲ夫々合算掲載スベシ

四 町村吏員ノ其ノ他ノ項ニハ列記外ノ吏員(備人ヲ除ク)ヲ合算掲載スベシ

五 表中ニ掲グル俸給ハ十二月三十一日ノ現在員ニ支給スベキ一箇年ノ額ヲ記入スベシ但シ圓位ニ滿タザル端數ハ各項ニ於テ四捨五入ノ法ヲ用ヒ圓位ニ止ムベシ

六 日給者ノ給料ハ一箇年三百六十五日ノ割合ヲ以テ計算シ公暇日ニ日給ヲ支給セザル者ノ給料ハ三百日ノ割合ヲ以テ計算スベシ

七 市町村吏員諸給與ニ關シ左ノ附表ヲ添附スベシ

附表 市町村吏員諸給與

(何年)

職名	退隱料		退職給與金		死亡給與金		遺族扶助料	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
市長		圓		圓		圓		圓
助役								
收入役								
副收入役								
局長								
理事								
主事								
視學								
技師								
書記								
技手								
事務員								

村				町				員																	
主事	副收入役	收入役	助役	町村長	計	其ノ他	藥劑員	醫員	病院長	館長	所長	主事補													

員												吏														
計	其ノ他	事務員	技術員	書記補	書記	技手	技師																			

一 本表ニ掲グル諸給與ハ市町村條例ニ依リ有給吏員ニ支給セラレタルモノニ付調査スベシ
 二 退隱料及遺族扶助料ハ年末現在ヲ退職給與金、死亡給與金ハ年中ノ事實ヲ記入スベシ
 三 本表ハ第三 市町村吏員並名譽職參事會員記載例第三、第四ニ依リ記載スベシ
 四 金額ノ圓位ニ滿タザル端數ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ圓位止ムベシ

第四

職業別戸數及人口調

(何年十二月末日現在)

職業別	本業		副業						
	戸數	人口	戸數	人口					
					男	女	男	女	
農業									
農産業									
水産業									
鑛業									
工業									
商業									
交通業									
公務自由業									
家事使用人									
其ノ他有業者									
無業									
合計									

注意

- 一 職業ノ區別ハ昭和五年十二月内閣訓令第三號職業分類ニ依ルベシ
- 二 本業トハ主トシテ其ノ業務ニ依リ生計ヲ營ムモノヲ謂ヒ副業トハ本業ノ傍ヲ營ム業務ヲ謂フ
- 三 二以上ノ副業ヲ有スルモノアル場合ニ於テハ主タル一方ニ付記入スベシ
- 四 人口ハ其ノ一戸内ニ居住セル家族全部ヲ記入スベシ
(但シ同居人又ハ寄宿人ハ其ノ家族ト見做ス)
- 五 學校又ハ法人若ハ組合組織ニ依ル經營体アルトキハ各之ヲ一戸ト見做シ(常住者ナキモノハ之ヲ除ク)又之ニ常住スルモノハ各其ノ人口トシテ調査スベシ
- 六 一時的不在者ヲ含メ一時的在住者ハ之ヲ含マズ
- 七 本業戸數及人口ノ合計ハ其ノ管内ニ於ケル總戸數及總人口ト一致スベキモノトス

第一二 道 路

(何年三月三十一日現在)

種別	主用		主用延長内譯		主用延長幅員別内譯		最急		最小	
	延長	道路	延長	道路	延長	道路	勾配	半徑	勾配	半徑
路線數	延長	延長	延長	延長	延長	延長	勾配	半徑	勾配	半徑
	延長	延長	延長	延長	延長	延長	勾配	半徑	勾配	半徑
	延長	延長	延長	延長	延長	延長	勾配	半徑	勾配	半徑

合計

- 一 橋種ニハ材質ヲ冠スベシ(木桁橋、鐵構橋等)
- 二 長ニ米未滿ノモノ及土厚一米以上ノモノハ算入スベカラズ
- 三 長ハ蹴込石又ハ蹴込板ノ内端間ノ長ニ依ルベシ

第一四 水道 其イ

(何年度末現在)

企業者	某市	何々	認可		起工	竣功	給水		給水人口	極度給水人口	給水量		水源	水壓ノ概算(平方呎ニ付)
			又ハ許可	又ハ			開始	費總工			當初計畫	現在		
鐵管	鉛管	其ノ他	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
配水管延長			給水管延長			給水人口			給水量			水源		
專用栓引用戶數			公用栓使用用戶數			放付計			公設私設			計		

企業者	某市	何々	消火栓		放水栓	給水栓		計	給水區域内現住總戶數
			兼用區	器		公用	私設		
何々	某市	何々							
何々	某市	何々							

一 本表ハ前表ニ掲出セル各水道ノ一年度間ニ於テ給水竝收支決算額ヲ記載報告スル様式ヲ示シタルモノナリ

二 水道費收支ハ其ノ年度ノ決算額ヲ掲上スベシ但シ雜收入中ニハ布設資金ニ屬スル收入ハ算入スベカラズ又災害復舊費ハ之ヲ維持修繕費中ヘ「△」印ヲ附シテ別掲スベシ

三 布設總工費中ニハ起債ニ關スル一切ノ費用ヲ包含スベカラズ

四 布設總工費及財源竝國庫ヨリ補助ヲ受ケタルモノハ左記附表ニ準ジ作成添付スルヲ要ス但シ竣功ノ分ハ決算額ヲ掲グ未竣功ノ分ハ總テ(布設總工費ノ各年度ノ年度割額ヲモ)豫算額ヲ掲上スベシ又増築及復舊ニ係ルモノハ夫々區分明記ヲ要ス尙附表ノ計額ニ必ず水道其ノ一ノ布設總工費ト符合セシムベキモノナリ

第一五 水 道 其ノ二

(何年度)

企業者	濾過水量	給水總量	平均一日給水量	時間最大ニ對スルセシノ給水量	何々	水道		費用	料	收入	合計
						立方形米	立方形米				
某市	立方形米	立方形米	立方形米	立方形米		消火栓	放水	給水	官衛學校病院會社等用	其ノ他	雜收入
何々						專用	共用	家用	營業用	其ノ他	合計

企業者	布設費	維持費	修繕費	雜給費	俸給	雜給	合計	何々	某市	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
某市	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓													
何々																				

一 本表ハ水道條例ニ依リ布設ノ認可又ハ許可ヲ得タルモノノ年度末現況ヲ記載報告スル様式ヲ示シタルモノナルガ故ニ假令工事未着手ナリトモ其ノ年度内ノ認可又ハ許可ニ係ルモノハ之ヲ報告スベシ

- 二 企業者ノ欄ニハ市町村組合私人等ノ別ヲ記入スベシ次表モ亦同ジ
- 三 改築又ハ増築等ニ關スル變更災害ノ復舊ニ屬スル工事ノ認可起工竣工トモ其ノ年月日ヲ「※」印ヲ附シテ之ヲ別掲シ從テ其ノ工費モ布設總工費ノ欄ニ別記スルヲ要ス但シ竣工ノ分ハ決算額ヲ掲グ未竣工ノ分ハ一部竣工セルモノト雖總テ豫算額ヲ計上スベシ
- 四 水源欄ヘハ引用スル河川、鑿井等ノ區別ト河川等ノ名稱引用所ノ地名等ヲ詳記スベシ
- 五 配水管延長中其ノ他ノ欄ニハ混凝土管、木管、土管等ヲ區分掲上スベシ
- 六 給水區域内現住總戸口ハ最近ノ事實ヲ掲グ且其ノ年月日ヲモ添記スベシ
- 七 計畫ノ變更若ハ改稱合同撤廢等ノ異動ハ之ヲ明記スベシ

種別	布				
	何年	何年	何年	何年	何年
某市何々	度	度	度	度	度

設 工 費		財 源				
計	何	建	配	淨	導	水
建築	々	造	管	構	水	源
費	々	費	費	場	管	費
事務	費	及	雜	費	費	費
豫備	費	計	助	金	費	費
小計	費	費	費	費	費	費
國庫	補	助	金	費	費	費
廳府	縣	補	助	費	費	費
廳府	縣	補	助	費	費	費
市町	村	附	金	費	費	費
寄附	金	費	費	費	費	費
計	々	々	々	々	々	々

國庫補助額年度別

何年	何年	何年	何年	何年	何年
計	年	年	年	年	年
	度	度	度	度	度

鳥取縣訓令甲第二十五號

鳥取縣防空委員會委員其ノ他旅費支給規程左ノ通定ム

昭和十二年十二月二十八日

總務部 部長
警察部 部長

鳥取縣知事 立田清辰

鳥取縣防空委員會委員其ノ他ノ旅費手當支給規程

第一條 鳥取縣防空委員會委員ニシテ會長ノ招集ニ應ジ會議ニ出席シタルトキ又ハ會務上必要ナル出張ヲ命ゼラレタルトキハ本規程ニ依リ手當若ハ旅費ヲ支給ス但シ他ヨリ旅費若ハ手當ヲ支給セラルル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 鳥取縣防空委員幹事及書記ニシテ會務ノ爲出張ヲ命ゼラレタルトキハ本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第三條 旅費又ハ手當ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス但シ本縣官吏ハ其ノ官公職相當ノ額ニ依ル

第四條 手當ハ會議開催地居住ノ委員其僱シ官吏ヲ除クニシテ會議ニ出席シタルトキハ別表ニ定ムル相當ニ相當スル

第五條 前二條ノ外旅費支給ニ關シテハ縣費支辨旅費規則ノ例ニ依ル

第六條 特別ノ事由ニ依リ本規程ニ依リ難キモノ、手當旅費額及其ノ支給方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

本規程ハ昭和十二年十月二十六日ヨリ之ヲ適用ス

別表

區別 車馬賃 日 當 宿 泊 料 食 卓 料 鐵道賃及船賃

縣外	七十五錢	三圓五十錢	五圓九十錢	二圓二十五錢	二	等 實費
縣内	六十錢	二圓七十錢	四圓五十錢	二圓二十五錢	同	

○鳥取縣訓令甲第二十六號

母子保護事務取扱手續左ノ通定ム

昭和十二年十二月二十八日

市 町 村 長

鳥取縣知事 立 田 清 辰

第一條 市町村長扶助ヲ行ハントスルトキハ扶助ヲ受クベキ母ノ資産所得ノ有無、配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム)ノ有無又ハ其ノ狀況、子女養育ノ適否及母並ニ其ノ扶養義務者ノ能力等各種ノ事情ヲ充分ニ調査シタル上扶助ノ種類、程度及方法ヲ決定スベシ

第二條 市町村長ハ常ニ扶助ヲ受クル者ノ狀況ニ注意シ其ノ處遇ノ適正ヲ期スルト共ニ必要ニ應ジ遲滞ナク扶助ノ廢止、停止又ハ變更ヲ爲スベシ

第三條 市町村長扶助ノ許否ヲ決定シ又ハ扶助ノ廢止、停止若ハ變更ヲ爲サントスルトキハ方面委員ノ意見ヲ徵スベシ

第四條 母子保護法第一條第一項第一號ノ事由ノ認定ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ徵スベシ

第五條 母子保護法施行細則第五條第一項第一號ノ往診ハ特ニ其ノ必要アリト認メタルトキニ限リ之ヲ行フベシ

第六條 齒科醫療ニ付テハ齒科補綴ハ之ヲ行ハザルノミナラズ特ニ治療ヲ要シ放置シ難キモノニ限リ之ヲ行フベシ

第七條 生業扶助ニ付テハ子女養育ニ支障ナキ限リ之ヲ活用スルニ努メ其ノ原資ヲ消盡セシメザル様常ニ注意スベシ

第八條 母子保護法施行細則第五條第二項第七條第二項ノ制限外支出ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シタル申請書ヲ提出スベシ

- 一 扶助ヲ受クベキ者ノ氏名、生年月日
- 二 居 住 地

三 醫療ノ方法及期間並ニ醫療費所要見込額

四 制限額ニ依ル能ハザル理由

第九條 被扶助者本縣内ニ於テ其ノ市町村ニ居住地ヲ異動シタルトキハ前ノ居住地又ハ現在地ノ市

町村長ハ後ノ居住ノ市町村長ニ母子保護臺帳ノ謄本ヲ送付スベシ
 第十條 母子保護法第十二條ニ依リ扶助ニ要シタル費用ヲ徴收シ又ハ償還ヲ命ズル場合ニ於テハ其
 ノ納付者ノ資力及生計状態ヲ詳細ニ調査スベシ
 又被扶助者ノ遺留物品ヲ賣却スル場合ニ於テハ他ニ其ノ物品ニ對スル所有者又ハ先取得權者ナキ
 ヤ否ヤヲ調査スベシ

告 示

◆鳥取縣告示第七百五十號

東伯郡南谷村 安 步 大鳥居 耕地整理組合地區並設計書變更ノ件認可セリ

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第七百五十一號

東伯郡山守村堀耕地整理組合規約變更ノ件認可セリ

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第七百五十二號

昭和十二年十二月二十八日左記ノ者ニ對シ動力糶摺業免許證ヲ下付セリ

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

免許證番號	住 所	氏 名
一、一一一	岩美郡津ノ井村大字廣岡一二三番地	漆 原 滋 美
一、一一二	氣高郡鹿野町大字鹿野二四二六番地	阪 田 初 造
一、一一三	日野郡溝口町大字溝口七三九番地	小 川 時 治
一、一一四	東伯郡古布庄村大字八反田一二〇番地	德 丸 義 明
一、一一五	西伯郡尚徳村大字上安曇三五六番地	田 子 英 一
一、一一六	西伯郡大高村大字尾高一四二七番地	中 本 伊 佐 夫

◆鳥取縣告示第七百五十二號

當管内ニ於ケル健康保險產婆トシテ左ノ通指定セリ

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

開業所々在 地

氏

名

指定年月日

西伯郡外江村一六七七ノ二

足立ミドリ

昭和十二年十二月二十二日

◆鳥取縣告示第七百五十四號

當管内ニ於ケル健康保險醫中左ノ通異動アリタリ

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

診療所々在 地

氏

名

異動事項

異動年月日

鳥取市西町
日本赤十字社鳥取支部病院

白岩信一

管外移轉

昭和十二年十一月十八日

◆鳥取縣告示第七百五十五號

健康保險法施行規則第二十三條ニ依リ交付シタル被保險者證中左ノモノハ之ヲ無効トス

昭和十二年十二月二十八日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

被保險者證 記號 番號	被保險者氏名	工場事業又ハ事務所々 在地並名稱	無効トセル 被保險者證 交付年月日	無効トナサ タル年月日	備考
西 まち 三	影山常雄	西伯郡大幡村占長 車 ⑤自 動 車	昭和十一年 四月十三日	昭和十二年 八月二十三日	
米 ふは 一	水田信幸	米子市糺町二丁目 福井タイヤ修繕工場	昭和十一年 九月二日	昭和十二年 十二月一日	
米 ふは 三	崔元作	右 同	右 同	右 同	
鳥 ひ 三七七	山崎澄子	鳥取市東品治町 日ノ丸自動車株式會社	昭和十二年 五月十三日	昭和十二年 十二月十一日	
東 やう 五六	白水女子	東伯郡倉吉町越中町 山口製糸場	昭和十二年 七月十四日	昭和十二年 十一月一日	
西 ゆい 八七一	松本綾枝	西伯郡渡村 保證責任弓濱生糸販賣 購買利用組合	昭和九年 十月二十五日	昭和十二年 九月五日	
鳥 しい 六〇	前田俊治	鳥取市東品治町 昭和パラス株式會社	昭和十二年 十月四日	昭和十二年 十二月十五日	

